

「地域生活研究所一般研究助成」 2011年度報告

★ 「地域生活研究所一般研究助成選考委員会」を開催しました。

2011年7月に公示した研究助成の公募は9月30日で締め切りました。地域生活研究所のホームページでもご案内をすすめた結果、昨年を上回る30件の応募がありました。書面による選考などを経た後、12月7日(水)東京都生協連会館にて選考委員会を開催し、最終的に以下の2件の採用を決定いたしました。

テーマ：「アレルギーの子どもが直面する地域と暮らしの課題研究（食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎をフォーカス）」

研究団体： NPO 法人アトピッ子地球の子ネットワーク（研究責任者 赤城 智美）

助成額： 50万円

概要： 東日本大震災で弱者（疾患のある人、乳幼児など）への支援が滞ってしまうことなどを経験し、地域医療に従事する医師らに協力を仰ぎ、アレルギー疾患のある子と一般疾患で受診した家族それぞれから、アンケート形式で調査をする。この結果を地域づくり、防災ネットワーク、弱者支援のための基礎調査とする。

テーマ：「2011年、乳幼児期の外遊び、どう対応しましたか？（福島原発を受けて）」

研究団体： K O P A (Kids, Outdoor, Play, Activity)（研究責任者 矢郷 恵子）

助成額： 50万円

概要： 福島原発事故を受け、外遊びの必要性を感じながらも子どもたちの健康を考えると厳しい現状に直面。そこで、外遊び活動団体と親の現状と意識を調べ、乳幼児期の外遊びが都内でどのように受け止められているのか、必要とした対応や対策、情報なども含め調査し、今後に伝える内容としていく。

選考委員（五十音順）：青山侑氏（選考委員長・明治大学教授）、大西隆氏（東京大学教授）、堀越栄子氏（日本女子大学教授）、本光和子氏（地域生活研究所評議員）

* 選考結果は『まちと暮らし研究』15号および地域生活研究所ホームページでも公表いたします。

★『まちと暮らし研究』14号を発行しました。

特集テーマは「東日本大震災から学ぶもの」とし、東日本大震災を受けた、復興、防災、減災の諸課題を取り上げました。現地の状況報告と復興の現状とこれから、防災、減災の課題、さらに、「支援力」と「受援力」など、幅広い内容について取り上げています。



特集1 市民自発の復興へのみちすじ

- ★ 誰もが安心できる避難所はできたか
- ★ 僕らは、東日本大震災を仕組みから解決する

特集2 復興の現状とこれから

- ★ 復興構想と予防的まちづくりにおける減災の思想
- ★ 東日本大震災の教訓と地域防災計画見直しへの示唆
ほか

冊子の頒布ご希望の方は
下記までご連絡ください

TEL: 3383-8292

小原まで